

令和7年度 犀峽高等学校・篠ノ井高等学校犀峽校「関東同窓会」総会 報告

日 時 2025年6月21日(土) 12時～14時30分

場 所 東京都千代田区麹町6-6 スクワール麹町

関東同窓会 会長 坂井吉良

1. 総会

開会の辞に引き続き、39年度卒業の今井さんの指揮により、犀峽高校の校歌を斉唱しました。その後、坂井関東同窓会長のあいさつがありました。

(1)坂井関東同窓会長あいさつ(要旨)

・遠方からお越しいただいたご来賓及び会員の皆様に謝意を述べられ、これまでの「関東同窓会」の歴史と参加者の推移を話された後、年々参加される会員の皆様の減少に対する対応として、会員同士の情報提供・情報交換を積極的に推進するとともに、母校の情報や会員相互の情報から、会員に参加を「そっと促す」または参加の「小さなきっかけを与える」という、行動経済学の研究業績で2017年のノーベル経済学賞を授与されたシカゴ大学のリチャード・セイラー教授の「ナッジ理論」に基づく提案がなされました。この理論は、多くの分野で実践されており、同窓生の中にも実践経験があるかも知れないと予想され、参加を「そっと促す」ことで、一人でも多くの同窓生が参加するように今日ご出席の皆様にもご協力をいただきたい。また、引き続き「母校」と「関東同窓会」へのご支援をお願いしたいと挨拶されました。

来賓の挨拶

(2) 倉下副校長あいさつ及びカヌー部の活動状況(要旨)

・本年4月に着任された副校長の倉下先生からは、4月に入学した新入生13名・在校生8名(3年生5名、2年生3名)の全校生徒21名でスタートしたこと。また、本年3月には、通学圏内のバス路線が廃止になる方針が発表されたことを受け、存続(代替え)を含めこれからの通学の足の確保に努めていращやること。その通学に関していつもお世話になっているバスの運転手さんへ感謝の気持ちを込めて、学生たちが日頃手入れをしているバラを材料にしたフラワーアレンジメントを5月に贈呈した(サンクスローズ)ことなどについてお話されました。

さらに、懇親会開始直後、倉下先生より「カヌー部の活動状況について」スライドによる解説と本年5月にSBC信越放送の取材を受け、ニュース番組の特集で放送された映像が紹介されました。

最初にスライドにより部員4名及び顧問の紹介があり、新入部員の1年生3名の中には、カヌー部があるから犀峽校に入学したとのことで、これからの部活をとっても楽しみにしているとのこと。

平日の練習は体育館でバランスなどの器具を使って行い、週末には飯山市の北

竜湖に遠征して練習を積んでいること。特に、平日は帰りのバスの時間が限られていることから16時45分までしか練習が出来ないこと。何かと制約のあるなか、短時間に集中して効果的な練習をするなど日々努力している様子が紹介されました。

次に、SBC信越放送では、県内唯一のカヌー部として紹介され、普段の練習風景や飯山市北竜湖での新入部員の水上デビューの様子が放映されました。

これから、毎月大会が開催されることから同部員は、早く大会に出て記録を出したいとそれぞれ抱負を語っていました。倉下先生から今後も一層カヌー部へのご支援ご協力をお願いしたいと話されました。

(3)清水本部同窓会長あいさつ(要旨)

・本年5月より本部同窓会長を仰せつかりました。今回、自宅の農園でリンゴを栽培していますのでリンゴジュースを提供させていただきました。会報を見ても、関東支部の皆様には会費の納入など日頃から多くの方々にご協力いただいております、地元としても負けないよう努力したい。

また、生徒の通学の足であるバス路線の廃止及び自動販売機入札の件並びにタクシーも事前に予約しないと利用出来ないなど、益々不便になっている状況ではありますが、先生方と協力しながら生徒たちの取り巻く環境をより良くするため努力して行きたいと挨拶されました。

議事

(1)事業報告について

(2)会計報告について

(3)会計監査報告について

それぞれ担当者から資料に基づき報告があり、会員の多数より賛同をいただき承認され、総会は終了しました。

2. 懇親会

昼食を兼ねた懇親会が、27年度卒業の青木様の「乾杯のご発声」で始まりました。

続いて、倉下先生の解説でカヌー部の活動状況等を同会場で映写しました。

しばらく懇談しそれぞれ親交を深めった後に、「村田さんと48年の仲間たち及び有志」の指導で「第一応援歌」を、当時の応援団の応援スタイルが再現され、全員で合唱し大いに盛り上がりました。

その後、今井さんのリードで「信濃の国・故郷」をみんなで合唱。

最後に、32年度卒業の下平様の「締め」で懇親会が終了しました。

(広報担当 宮崎利久)